

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104100
法人名	有限会社 ジー・エル・ファミール
事業所名	グループホーム ファミール立花
所在地	愛媛県松山市立花1丁目1番23号
自己評価作成日	平成 21年 6月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は在宅診療支援の診療所も開設しているため、医療的な安心感が高いホームである。定期的な往診や専門的な医療機関との連携もできている。ケアの面では、管理者と職員が丁寧な話し合いを行っており、ホーム全体で「質とは何か」「サービスとは何か」を絶えず問いながら、利用者の生活を支えている。管理者と職員、先輩と新任職員などの中で十分な話し合いがなされており、職員の離職者が少ないのもホームの特徴である。「これからは地域貢献も考えたい」と管理者は話すが、ボランティアの訪問や近隣の福祉相談など、すでに外部との繋がりがもできており、今後、地域の福祉資源としてのホーム運営が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム ファミール立花
(ユニット名)	A
記入者(管理者)	
氏名	村上文広
評価完了日	平成21年 6月 11日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設時に考えた 1. 安心して生活できる環境の提供 2. 個人の尊重と自立支援 3. 地域交流の支援という理念があり、外部評価のときに理念を再考してもいいのでは？との指摘を受けているが、今のところは開設時からの理念で愛着もあり、このままでも問題ないのではという気持ちもある。この理念を日誌やロビーに明記して普段から意識しやすいようにして、カンファレンスやケアプラン作成時の基本にしている。</p> <p>(外部評価) 管理者も職員も、理念に掲げている「個人の尊重と自立支援」を大切にできるケアを心がけている。抽象的ではあるが、逆にどの場面にもあてはめられる考え方である。この視点で日常的な業務だけでなく、地域との関係や共同生活の確立などでも利用者に接しており、ホーム全体で理念を共有化していることが伺える。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 利用者のちょっとした近所への外出の機会は去年より増えている、近所の人と挨拶を交わしたり話をしたりすることも増えているが、事業所自体が地域の一員として日常的に交流ができているというほどではない。</p> <p>(外部評価) 下町の雰囲気が残る地域で、ホーム裏手にあるお寺ではお祭りなどが行われ、利用者の近隣者との交流の場となっている。地域のイベントなどで顔見知りになった人と散歩したり、あいさつを交わしたりしているが、近隣者との日常的なつきあいまでは、至っていない。</p>	管理者が積極的に地域住民と付き合うことから始めることが必要と考えられる。歴史のある地域だけにホーム側からの働きかけが重要と思われるため、地域との交流の地盤を構築するために管理者の働きかけに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の人を含めて、ホームに相談に来る人が時々あり相談に乗っているが、事業所側から積極的に講習会を開くようなことはしていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議をすることで他のグループホームの情報やアドバイスをもらえるので、自分たちのグループホームを客観的に見る機会になっていて、一定のサービスレベル維持にはなっている。今後はこれをサービス向上に活かしたい。	
			(外部評価) 議事録から、会の回数を重ねるごとに、民生委員などのホームへの理解が深まっている状況が伺え、地域との接点として運営推進会議が位置づけられている。しかし、開催の間隔が半年程度あり、利用者へのサービス向上に活かせるような身近な会議とはなっていない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ連絡や相談を行っている。	
			(外部評価) 市の介護保険課だけでなく、生活福祉課などとも積極的な連携に取り組んでいる。また、市社協や地域包括支援センターなどとも行き来がある。特に地域包括支援センターはホームにとって地域との仲介者であり、密な連携が取れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 基本的に身体拘束をしないケアをということでカンファレンス等で話し合いもしており取り組んでいる。	
			(外部評価) 管理者は、身体拘束をしないケアについて、事あるごとに話し合いを行っており、その積み重ねが職員の教育に繋がっている。カンファレンスなどを通じて、管理者と職員が対面で話し合うことを大切に、抑圧しない暮らしの支援に前向きに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) カンファレンスの時に話し合いをしたりして虐待防止に努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) Bユニットに成年後見制度を利用している入居者が2人いるが、Aユニットにはこの制度を利用している方はいない。今後必要と思われる状況になれば、関係者と話し合いこれらの制度や支援事業の活用を考えて生きたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 同様にしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 普段の生活の中で、利用者が自分の意思表示がしやすいような職員との関係作りを意識しているのと、家族が面会にきた時にも同様に気が付いたことを言いやすいような雰囲気作りをし、その中で出た意見などで、出来ることは運営に反映するように努力している。	
			(外部評価) 管理者は、意見や要望がホームの質の向上に直結すると考え、利用者や家族等と膝を交えて話し合うことに心を砕いている。偶然、利用者の話を傾聴する場面を垣間見たが、その姿勢は穏やかで丁寧である。利用者や家族等の意見をサービス向上に反映させるよう熱心に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月、介護主任（副主任）、ユニット長、管理者、運営者が集まり会議を開くようにし、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、反映できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 管理者は職員と一対一で話す機会を事あるごとに作っており、対等な関係で話し合うよう配慮している。また、意見や提案を引き出して、ホーム全体でケアを考える取り組みを行っている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 経営状況によっては難しいこともあるが、可能な範囲で職場環境や条件整備に努めている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 会社の運営上必要と認めたものは外部の研修についても勤務時間外で研修を受けてもらい、研修費用も会社が全額負担するようにしている。その他の研修についても、状況に応じ研修費用を（一部～全部）負担したり、勤務外で研修を受けれる機会を作っている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 相互訪問は行っていないが、勉強会や交流は包括支援センターの連絡会やクラブホーム連絡協議会の研修等で機会があり、時間が許せば参加するようにしている。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用前にも、本人や関係者からこれまでの経緯や現状を聞いたり、利用についての不安等があれば聞くようにし、利用後も随時本人等の話に耳を傾け、安心して生活できるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 同様にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 同様にしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) そういうように意識を持ち接するようになっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) そういうように意識を持ち接するようになっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や、以前交流があった人たちにも働きかけ、馴染みの人や場所との関係が少しでも維持できるように働きかけている。 (外部評価) 利用者の入居前の関係継続は、本人の意向を第一に考えて対応しているが、状況によってはそうでない場合もある。外出の際に馴染みの場を通る場合など、日頃から利用者の状態に目を配り、一人ひとりの地域との関係性の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 同様にしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同様に心がけていて、以前入居していた利用者の家族が時々ホームに立ち寄ってくれることもある。また、入院が長期になり退所になった利用者の家族が県外で生活しているので、入院中の状況を定期的に伝えたり、手続き等を家族に代わり行ったりしたことがある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中や、家族の面会時に利用者や家族の思いや希望が出ることも多く、そういった思いや希望に対しどうすればその一部でも実現できないかと、まずは受け入れるようにし、始めからそれは無理というような考え方はしないようにしている。 (外部評価) 利用者の背景を知ることはケアの質に直結すると考え、入浴ケアや散歩時などを利用し積極的に聞き取りを行っている。聞き得た情報を介護日誌に記録し、職員間で話し合いを持っているが、情報の共有化の仕組みはまだ十分整備されているとは言えない。	利用者の生活歴などは、会議や申し送り時での口頭と介護日誌の記載だけでは、正確な把握が難しい。貴重な情報だけに統一された記録用紙が必要であり、それに書き足して適宜、確認しあうような取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の本人や家族、関係者からの情報に加え、入居後も本人や家族等の会話から情報を得るようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 同様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のカンファレンス時に普段の様子や面会時の家族等からの情報を参考に職員で話し合い介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者のモニタリングは担当職員制にし、介護計画はその職員と計画作成担当で立案し、カンファレンスでは全員の意見を集約している。管理者は介護計画のポイントを3つ程度に絞り、利用者の状況を見る視点を大切にしている。職員のモニタリング力の向上を意識している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 同様にしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り柔軟に対応するように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ホーム入居前にこの地域で生活していた人が利用することが多いが、職員付き添いで近所の美容室や歯医者、スーパーを利用している方はいる。ただし今のところ割合は少ない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医を含め、必要に応じ家族や本人の希望を 聞き必要な医療機関の受診等の支援を行っている。	
			(外部評価) 運営者である医師が訪問診療を重視しており、在宅の 時からかかりつけ医としていた人も多い。そのため、 医療との連携や情報交換はとてもスムーズである。他 の医療機関とも運営者や看護職員が連絡を取り合い、 医療面で安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 同様にしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 同様にしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時の説明でも看取りについての話をしているが、 必要と考えられる場合には、その都度家族や関係者と 話し合いをしている	
			(外部評価) 運営者が医師であるため医療に強いホームを目指して いる。そのため、重度化や終末期のケアについては管 理者をはじめ、職員とも話し合いが重ねられている。 管理者は家族等の協力なしでは終末期のケアは難しい と考えており、家族等との話し合いも丁寧に行われて いる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応についての簡単な対応マニュアルを作っていて見やすい所に貼っていたり、年1回以上の消防非難訓練の時に、消防署職員に救命講習を受けるようにしている。また救命方法のビデオを置いてあり職員が借りて帰れるようにもしているが、実際にそういう場面に職員が遭遇した場合は、大半の職員が経験を積んでいないので不安はある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ここ2回ほどは夜間に火災が発生した設定で、火災避難訓練をしている。地域との協力体制については、取り決めをしているわけではないが、近所に住んでいる職員が2名いるのと、入居者の知人の家族が近所に住んでいたりと、運営推進委員の町内会長と民生委員の方々も家が近いので、ある程度協力は得られるように思っている。 (外部評価) 夜間の災害時に向けて、避難訓練や応急処置の研修等が熱心に行われている。避難訓練等について、地域とは運営推進会議で話し合われてはいるが、協力体制が築かれているとまでは言えない。	地域の協力を得て避難訓練などを行うことは、近隣の人々と意識の同調が行えると思われる。さらに、協力体制を堅固にするために、ホームも地域の高齢者の避難場所として施設を提供するという考えも必要と思われる、今後の検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 慣れてくると言葉遣いが友達言葉になってくるので、カンファレンスの時などに注意するようにしている。十分ではないが、同様に対応するように努めている。 (外部評価) 管理者は日頃から言葉づかいに配慮しており、さりげない丁寧な声かけを職員に求めている。職員は、話しをする中で、利用者を人生の先輩として尊重した配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 同様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の体制上できない事もあるが、ある程度の生活リズムを保ちながら、できる範囲で個人のペースや希望に添うように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 同様にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や片付けに参加できる利用者や参加できる内容は限られてしまうが、働きかけは行っている。 (外部評価) 身体機能が低下している方や、男性の利用者も比較的多いが、準備や後片付けの役割をそれとなく振り分けて「みんなで食事を」という雰囲気づくりができています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の栄養状態や、体重を考慮して必要な人には食事量の制限や栄養補助食品の利用などを行い。摂取量についても、必要に応じ個別により細かいチェックをするようにして対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 本人が拒否する場合もあるが、利用者全員に口腔ケアを働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) まだ工夫できることはあると思うが、同様の対応をしている。	
			(外部評価) 管理者と職員は排泄についてよく話し合っており、「便器に座ってもらいたい」「トイレへの誘導を増やしたい」などの積極的な意見が会議で出ている。それを介護計画に盛り込んだり、短期間試すなどして、排泄の自立に向け積極的に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 同様にしている。また、排便チェック表をつけていて、必要に応じて下剤も使用し便秘が長期化しないように気をつけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 援助が必要な方が入浴するので、職員の体制上時間帯については本人の希望どうりにはできていないが、時間内であれば、曜日や同姓介助など希望を聞いて行っている。	
			(外部評価) 共同生活であるため、入浴時間はホームのスケジュールに組まれているが、シャワー浴や足浴などは個々の利用者の希望や状況に応じて実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 同様にしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的や副作用、用法や用量等は薬局から出される説明文を個人のカルテに入れていて、必要に応じ確認できるようにしている。また、症状の変化にも気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の過ごし方は、みんなが同じ事を一緒にすることはあまりなく、それぞれが、ぬり絵をしたり、パズルをしたりという具合で過ごしており、時々職員が一緒にしながら支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日々のちょっとした近所への外出は去年よりも増えているが、その時になって急に言われるとできない事も多く、日を変えてもらうこともある。普段いけないような場所への外出は、まずは家族に協力をお願いし行うようにしている。 (外部評価) 職員のシフトや仕事内容を担当制（食事担当）にする等工夫し、利用者の外出機会を増やすように配慮している。気分転換やストレス発散のため、日常的な外気浴を大切にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 実際にお金を所有している利用者は少ないが、希望がある場合は家族と相談の上、小額を本人に管理してもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 各所に観葉植物や絵を飾り、台所・食堂（リビング）がオープンスペースになっていて、食事を作っているところが見えたり、においも感じられるようになっている。</p> <p>(外部評価) ホーム全体が、ゆったりとした造りになっており、共用空間にも大きなテーブルがあるが、圧迫感を感じさせない配置にしている。居間から直接伸びている廊下も、車いすがゆっくりと通るだけの広さがあり、居心地のよい開放感がある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファを置いたり、裏庭が見えるところに椅子を置いて自由に利用していいようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室に置けるものであれば、馴染みの物を持ち込んでかまわないようにしているので、自宅にあった仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。</p> <p>(外部評価) ホームが基本的な家具を用意しているが、利用者がそれぞれの馴染みの家具を持ち込んでおり、どの部屋にも個性が感じられる。壁には好みの写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレの広さや廊下の幅は車イスも利用できる広さを確保していて、各所の入り口の段差も少なくし、トイレ・浴室・廊下に手すりを取り付けている。また、居室入り口等に名札を付けたり、カレンダーや時計を目に付きやすいところに設置し、確認しやすいようにしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104100
法人名	有限会社 ジー・エル・ファミール
事業所名	グループホーム ファミール立花
所在地	愛媛県松山市立花1丁目1番23号
自己評価作成日	平成 21年 6月 11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人は在宅診療支援の診療所も開設しているため、医療的な安心感が高いホームである。定期的な往診や専門的な医療機関との連携もできている。ケアの面では、管理者と職員が丁寧な話し合いを行っており、ホーム全体で「質とは何か」「サービスとは何か」を絶えず問いながら、利用者の生活を支えている。管理者と職員、先輩と新任職員などの間で十分な話し合いがなされており、職員の離職者が少ないのもホームの特徴である。「これからは地域貢献も考えたい」と管理者は話すが、ボランティアの訪問や近隣者の福祉相談など、すでに外部との繋がりができている。今後、地域の福祉資源としてのホーム運営が期待される。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム ファミール立花

(ユニット名) B

記入者(管理者)
氏名 村上文広

評価完了日 平成21年 6月 11日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設時に考えた 1. 安心して生活できる環境の提供 2. 個人の尊重と自立支援 3. 地域交流の支援という理念があり、外部評価のときに理念を再考してもいいのでは？との指摘を受けているが、今のところは開設時からの理念で愛着もあり、このままでも問題ないのではという気持ちもある。この理念を日誌やロビーに明記して普段から意識しやすいようにして、カンファレンスやケアプラン作成時の基本にしている。</p> <p>(外部評価) 管理者も職員も、理念に掲げている「個人の尊重と自立支援」を大切にできるケアを心がけている。抽象的ではあるが、逆にどの場面にもあてはめられる考え方である。この視点で日常的な業務だけでなく、地域との関係や共同生活の確立などでも利用者に接しており、ホーム全体で理念を共有化していることが伺える。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 利用者のちょっとした近所への外出の機会は去年より増えている、近所の人と挨拶を交わしたり話をしたりすることも増えているが、事業所自体が地域の一員として日常的に交流ができているというほどではない。</p> <p>(外部評価) 下町の雰囲気が残る地域で、ホーム裏手にあるお寺ではお祭りなどが行われ、利用者の近隣者との交流の場となっている。地域のイベントなどで顔見知りになった人と散歩したり、あいさつを交わしたりしているが、近隣者との日常的なつきあいまでは、至っていない。</p>	管理者が積極的に地域住民と付き合うことから始めることが必要と考えられる。歴史のある地域だけにホーム側からの働きかけが重要と思われるため、地域との交流の地盤を構築するために管理者の働きかけに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の人を含めて、ホームに相談に来る人が時々あり相談に乗っているが、事業所側から積極的に講習会を開くようなことはしていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議をすることで他のグループホームの情報やアドバイスをもらえるので、自分たちのグループホームを客観的に見る機会になっていて、一定のサービスレベル維持にはなっている。今後はこれをサービス向上に活かしたい。	
			(外部評価) 議事録から、会の回数を重ねるごとに、民生委員などのホームへの理解が深まっている状況が伺え、地域との接点として運営推進会議が位置づけられている。しかし、開催の間隔が半年程度あり、利用者へのサービス向上に活かせるような身近な会議とはなっていない。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 必要に応じ連絡や相談を行っている。	
			(外部評価) 市の介護保険課だけでなく、生活福祉課などとも積極的な連携に取り組んでいる。また、市社協や地域包括支援センターなどとも行き来がある。特に地域包括支援センターはホームにとって地域との仲介者であり、密な連携が取れている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 基本的に身体拘束をしないケアをということでカンファレンス等で話し合いもしており取り組んでいる。	
			(外部評価) 管理者は、身体拘束をしないケアについて、事あるごとに話し合いを行っており、その積み重ねが職員の教育に繋がっている。カンファレンスなどを通じて、管理者と職員が一对一で話し合うことを大切に、抑圧しない暮らしの支援に前向きに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) カンファレンスの時に話し合いをしたりして虐待防止に努めている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) Bユニットに成年後見制度を利用している入居者が2人居て、そのうち1人は入居後に必要と感じ利用を始めている。今後も必要と思われる状況になれば、関係者と話し合いこれらの制度や支援事業の活用を考えて生きたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 同様にしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 普段の生活の中で、利用者が自分の意思表示がしやすいような職員との関係作りを意識しているのと、家族が面会にきた時にも同様に気が付いたことを言いやすいような雰囲気作りをし、その中で出た意見などで、出来ることは運営に反映するように努力している。 (外部評価) 管理者は、意見や要望がホームの質の向上に直結すると考え、利用者や家族等と膝を交えて話し合うことに心を砕いている。偶然、利用者の話を傾聴する場面を垣間見たが、その姿勢は穏やかで丁寧である。利用者や家族等の意見をサービス向上に反映させるよう熱心に取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、介護主任（副主任）、ユニット長、管理者、運営者が集まり会議を開くようにし、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、反映できるようにしている。 (外部評価) 管理者は職員と一対一で話す機会を事あるごとに作っており、対等な関係で話し合うよう配慮している。また、意見や提案を引き出して、ホーム全体でケアを考える取り組みを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 経営状況によっては難しいこともあるが、可能な範囲で職場環境や条件整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 会社の運営上必要と認めたものは外部の研修についても勤務時間外で研修を受けてもらい、研修費用も会社が全額負担するようにしている。その他の研修についても、状況に応じ研修費用を（一部～全部）負担したり、勤務外で研修を受けれる機会を作っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 相互訪問は行っていないが、勉強会や交流は包括支援センターの連絡会やクラブホーム連絡協議会の研修等で機会があり、時間が許せば参加するようにしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用前にも、本人や関係者からこれまでの経緯や現状を聞いたり、利用についての不安等があれば聞くようにし、利用後も随時本人等の話に耳を傾け、安心して生活できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 同様にしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 同様にしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) そういうように意識を持ち接するようになっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) そういうように意識を持ち接するようになっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や、以前交流があった人たちにも働きかけ、馴染みの人や場所との関係が少しでも維持できるように働きかけている。 (外部評価) 利用者の入居前の関係継続は、本人の意向を第一に考えて対応しているが、状況によってはそうでない場合もある。外出の際に馴染みの場を通る場合など、日頃から利用者の状態に目を配り、一人ひとりの地域との関係性の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 同様にしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同様に心がけている。Bユニットではこのような事例は無いが、Aユニットでは、以前入居していた利用者の家族が時々ホームに立ち寄ってくれたり、入院が長期になり退所になった利用者の家族が県外で生活しているので、入院中の状況を定期的に伝えたり、手続き等を家族に代わり行ったりしたことがある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活の中や、家族の面会時に利用者や家族の思いや希望が出ることも多く、そういった思いや希望に対しどうすればその一部でも実現できないかと、まずは受け入れるようにし、始めからそれは無理というような考え方はしないようにしている。 (外部評価) 利用者の背景を知ることはケアの質に直結すると考え、入浴ケアや散歩時などを利用し積極的に聞き取りを行っている。聞き得た情報を介護日誌に記録し、職員間で話し合いを持っているが、情報の共有化の仕組みはまだ十分整備されているとは言えない。	利用者の生活歴などは、会議や申し送り時での口頭と介護日誌の記載だけでは、正確な把握が難しい。貴重な情報だけに統一された記録用紙が必要であり、それに書き足して適宜、確認しあうような取り組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の本人や家族、関係者からの情報に加え、入居後も本人や家族等の会話から情報を得るようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 同様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 月1回のカンファレンス時に普段の様子や面会時の家族等からの情報を参考に職員で話し合い介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者のモニタリングは担当職員制にし、介護計画はその職員と計画作成担当で立案し、カンファレンスでは全員の意見を集約している。管理者は介護計画のポイントを3つ程度に絞り、利用者の状況を見る視点を大切にしている。職員のモニタリング力の向上を意識している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 同様にしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り柔軟に対応するように努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 入居前にこの地域で生活していた人の割合も多くなり、職員付き添いで近所の美容室や歯医者、スーパーを利用することも以前よりは増えているが、今のところ割合は少ない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医を含め、必要に応じ家族や本人の希望を 聞き必要な医療機関の受診等の支援を行っている。	
			(外部評価) 運営者である医師が訪問診療を重視しており、在宅の 時からかかりつけ医としていた人も多い。そのため、 医療との連携や情報交換はとてもスムーズである。他 の医療機関とも運営者や看護職員が連絡を取り合い、 医療面で安心感がある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 同様にしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 同様にしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時の説明でも看取りについての話をしているが、 必要と考えられる場合には、その都度家族や関係者と 話し合いをしている	
			(外部評価) 運営者が医師であるため医療に強いホームを目指して いる。そのため、重度化や終末期のケアについては管 理者をはじめ、職員とも話し合いが重ねられている。 管理者は家族等の協力なしでは終末期のケアは難しい と考えており、家族等との話し合いも丁寧に行われて いる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時の対応についての簡単な対応マニュアルを作っていて見やすい所に貼っていたり、年1回以上の消防非難訓練の時に、消防署職員に救命講習を受けるようにしている。また救命方法のビデオを置いてあり職員が借りて帰れるようにもしているが、実際にそういう場面に職員が遭遇した場合は、大半の職員が経験を積んでいないので不安はある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ここ2回ほどは夜間に火災が発生した設定で、火災避難訓練をしている。地域との協力体制については、取り決めをしているわけではないが、近所に住んでいる職員が2名いるのと、入居者の知人の家族が近所に住んでいたりと、運営推進委員の町内会長と民生委員の方々も家が近いので、ある程度協力は得られるように思っている。 (外部評価) 夜間の災害時に向けて、避難訓練や応急処置の研修等が熱心に行われている。避難訓練等について、地域とは運営推進会議で話し合われてはいるが、協力体制が築かれているとまでは言えない。	地域の協力を得て避難訓練などを行うことは、近隣の人々と意識の同調が行えると思われる。さらに、協力体制を堅固にするために、ホームも地域の高齢者の避難場所として施設を提供するという考えも必要と思われる、今後の検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 慣れてくると言葉遣いが友達言葉になってくるので、カンファレンスの時などに注意するようにしている。十分ではないが、同様に対応するように努めている。 (外部評価) 管理者は日頃から言葉づかいに配慮しており、さりげない丁寧な声かけを職員に求めている。職員は、話しをする中で、利用者を人生の先輩として尊重した配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 同様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の体制上できない事もあるが、ある程度の生活リズムを保ちながら、できる範囲で個人のペースや希望に添うように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 同様にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備や片付けに参加できる利用者や参加できる内容は限られてしまうが、働きかけは行っている。	
			(外部評価) 身体機能が低下している方や、男性の利用者も比較的多いが、準備や後片付けの役割をそれとなく振り分けて「みんなで食事を」という雰囲気づくりができています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者の栄養状態や、体重を考えて必要な人には食事量の制限や栄養補助食品の利用などを行い。摂取量についても、必要に応じ個別により細かいチェックをするようにして対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 本人が拒否する場合もあるが、利用者全員に口腔ケアを働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) まだ工夫できることはあると思うが、同様の対応をしている。	
			(外部評価) 管理者と職員は排泄についてよく話し合っており、「便器に座ってもらいたい」「トイレへの誘導を増やしたい」などの積極的な意見が会議で出ている。それを介護計画に盛り込んだり、短期間試すなどして、排泄の自立に向け積極的に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 同様にしている。また、排便チェック表をつけていて、必要に応じて下剤も使用し便秘が長期化しないように気をつけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 援助が必要な方が入浴するので、職員の体制上時間帯については本人の希望どうりにはできていないが、時間内であれば、曜日や同姓介助など希望を聞いて行っている。	
			(外部評価) 共同生活であるため、入浴時間はホームのスケジュールに組まれているが、シャワー浴や足浴などは個々の利用者の希望や状況に応じて実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 同様にしている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の目的や副作用、用法や用量等は薬局から出される説明文を個人のカルテに入れていて、必要に応じ確認できるようにしている。また、症状の変化にも気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々の過ごし方は、みんなが同じ事を一緒にすることは少なく、それぞれが編み物をしたり、パズルをしたり、本を読んだりという具合で過ごしており、職員の支援が必要な方は時々援助に入るようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日々のちょっとした近所への外出は去年よりも増えていて、Aユニットよりも頻度は多いと思う。急に言われると対応できない事も多く、日程を変えてもらうこともある。普段いけないような場所への外出は、まずは家族に協力をお願いし行うようにしている。 (外部評価) 職員のシフトや仕事内容を担当制（食事担当）にする等工夫し、利用者の外出機会を増やすように配慮している。気分転換やストレス発散のため、日常的な外気浴を大切にしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 実際にお金を所有している利用者は少ないが、希望がある場合は家族と相談の上、小額を本人に管理してもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 同様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 各所に絵を飾ったり、台所・食堂（リビング）がオープンスペースになっていて、食事を作っているところが見えたり、においも感じられるようになっている。</p> <p>(外部評価) ホーム全体が、ゆったりとした造りになっており、共用空間にも大きなテーブルがあるが、圧迫感を感じさせない配置にしている。居間から直接伸びている廊下も、車いすがゆっくりと通るだけの広さがあり、居心地のよい開放感がある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) ソファを置いたり、外が見えるところに椅子を置いて自由に利用していいようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室に置けるものであれば、馴染みの物を持ち込んでかまわないようにしているので、以前使用していたベッドや仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。</p> <p>(外部評価) ホームが基本的な家具を用意しているが、利用者がそれぞれの馴染みの家具を持ち込んでおり、どの部屋にも個性が感じられる。壁には好みの写真や絵なども飾られており、居心地よく過ごせる部屋となっている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレの広さや廊下の幅は車イスも利用できる広さを確保していて、各所の入り口の段差も少なくし、トイレ・浴室・廊下に手すりを取り付けている。また、居室入り口等に名札を付けたり、カレンダーや時計を目に付きやすいところに設置し、確認しやすいようにしている。</p>	